



Title	冷戦後の多国間条約成立過程におけるトランスナショナル・シビルソサエティの役割
Author(s)	目加田, 説子
Citation	大阪大学, 2001, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/42243
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 ＜a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed >大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名 目 加 田 説 子

博士の専攻分野の名称 博 士（国際公共政策）

学 位 記 番 号 第 1 6 3 6 7 号

学 位 授 与 年 月 日 平 成 13 年 3 月 23 日

学 位 授 与 の 要 件 学位規則第4条第1項該当

国際公共政策研究科国際公共政策専攻

学 位 論 文 名 冷戦後の多国間条約成立過程における
トランスナショナル・シビルソサエティの役割

論 文 審 査 委 員 (主査)

教 授 黒 澤 満

(副査)

教 授 野 村 美 明 助 教 授 星 野 俊 也 助 教 授 山 内 直 人

論 文 内 容 の 要 旨

冷戦後の国際社会における重要な多国間条約締結において、トランスナショナル・シビルソサエティが主権国家の機能を補完し活性化させる主体として台頭している。本研究では、多国間条約形成過程においてトランスナショナル・シビルソサエティが如何に国境を越えた連携を実現し、政府とどのような協働関係を構築しながらグローバルな課題に取り組んできたかを主テーマに据えた。尚、本論文におけるトランスナショナル・シビルソサエティとは、(1)国境を越えて連携したシビルソサエティを意味し、更に(2)非政府かつ非営利な活動主体、(3)多様な活動・組織形態、(4)活動哲学としての「地球規模の問題意識」、という3要素も兼ね備えている。

本研究の目的は、(1)トランスナショナル・シビルソサエティが多国間条約形成に関わる動機、目的、特徴を明らかにすること、(2)多国間条約形成過程においてトランスナショナル・シビルソサエティが果たした役割を分析すること、(3)トランスナショナル・シビルソサエティが果たした役割を可能にした条件・要因を実証的に分析すること、そして(4)トランスナショナル・シビルソサエティに関わるグローバル規範形成という新たな政治的ダイナミズムが21世紀の国際社会にどのような影響・変化をもたらすかについて考察し解を模索することであった。

この基本主題を検証するため、第1章においては事例研究の基本説明として、トランスナショナル・シビルソサエティの歴史的沿革及び諸理論をまとめた。第2章から第4章においてトランスナショナル・シビルソサエティが多国間条約形成において果たした役割、それを可能にした条件・要因を実証的に分析し、トランスナショナル・シビルソサエティの機能を検証した。具体的には第2章で気候変動枠組み条約・京都議定書、第3章では対人地雷全面禁止条約、そして第4章では国際刑事裁判所設立規程を題材に具体的に検証した。

本研究で明らかになったのは、(1)トランスナショナル・シビルソサエティは国際的 NGO ネットワーク形成を通じエンパワメント（力量拡大）した、(2)トランスナショナル・シビルソサエティは「交渉過程の議論への影響力」や「結果を決める影響力」、更には両者の相互補完的作用によって多国間条約交渉過程における影響力を強めた、(3)こうしたトランスナショナル・シビルソサエティによる政治的ダイナミズムは今世紀も続き、グローバル・ガバナンスの視点から国際政治を分析する必要性が強まる、といった点である。

論文審査の結果の要旨

本論文は、冷戦後の国際社会における重要な多国間条約の締結に際して、トランスナショナル・シビルソサエティが、主権国家の機能を補完し活性化させる主体として重要な役割を果たしている現状を、理論的かつ実証的に検証するものであり、さらに将来の国際社会への影響を検討するものである。まずトランスナショナル・シビルソサエティが冷戦後多く現われてきた背景や要因などその歴史的沿革を検討し、それに関する諸理論を分析し、後の事例研究の分析方法を明確にする。事例研究としては、気候変動枠組み条約・京都議定書に関する気象行動ネットワーク、対人地雷全面禁止条約に関する地雷禁止国際キャンペーン、国際刑事裁判所設立規程に関する国際刑事裁判所を求める NGO 連合を取り上げている。

論文においては、トランスナショナル・シビルソサエティが多国間条約形成にかかわる動機、目的、特徴が明らかにされ、そこにおいてどのような役割を果たしたかが明確にされ、そのような役割を可能にした条件・要因が実証的に分析されており、21世紀の国際社会への影響・変化が考察されている。すなわち、トランスナショナル・シビルソサエティは国際的 NGO ネットワークを通じてエンパワーされたこと、それは「交渉過程の議論への影響力」や「結果を決める影響力」および両者の相互作用などにより条約交渉過程に大きな影響を与えたこと、このような政治的ダイナミズムは21世紀も続き、グローバル・ガバナンスの視点から国際政治を分析する必要性が強まると結論する。

本研究は、国際法、国際政治、シビルソサエティなどさまざまな分野にまたがるものであり、日本においてはもちろんのこと、世界的にも十分な研究がこれまで行われていない領域であり、詳細な実証的研究に基礎を置く理論的な検討として、きわめて優れた研究である。その意味で学界に対する貢献も高いものと考えられるものであり、また自立した研究者として研究を進めるのに十分な資質を読み取ることができるので、国際公共政策の学位を授与するのに十分に値するものと考ええる。